

※公募の詳細については、公募機関(AMED)のwebサイトで必ず確認してください。(H29.1.6現在)

【H29年度日本医療研究開発機構(AMED)研究費】(臨床研究・治験基盤事業部 臨床研究課)

【公募締め切り・事業紹介リンク先】

「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業

<http://www.amed.go.jp/koubo/050120161202-02.html>

【AMEDへの提出期限】

平成29年1月19日(木)正午【厳守】

(研究推進課学術調整係への提出期限:平成29年1月12日(木))

○提出方法:e-Rad(機関承認要)

※希望者には、先端科学・イノベーション推進機構(O-FSI)による提案書アドバイス等を行いますので、O-FSI(fsojimu@adm.kanazawa-u.ac.jp)へ相談ください。

【公募課題概要】

	研究費(年間) (間接経費を含む)	研究期間	採択件数	公募する研究内容、求められる成果等
創薬基盤推進研究事業				
1. 「統合医療」(漢方、鍼灸、その他)に関する科学的知見の収集に関する研究				
1-1. 「統合医療」に関する科学的知見を創出するためのフィージビリティスタディ	1,000～3,000千円程度	1年度	0-5課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療のうち、臨床的な科学的知見を得ることが困難な漢方、鍼灸及び各種療法に関して、特に安全性・有効性等の観点から科学的根拠に基づき、質の高い臨床研究に取り組めるかどうかの実行可能性を検討し、求められる成果に示す臨床試験実施計画書(プロトコール)等を作成する。 ●求められる成果 <ul style="list-style-type: none"> (a)研究体制案 (b)臨床試験実施計画書(プロトコール) (c)症例報告書案 (d)同意説明書案及び同意書案 (e)モニタリング計画書案及び監査計画書案 (f)ロードマップ(患者・国民及び医師などに還元するまで) (g)その他研究の実施に必要な書類 (h)以上に基づく研究予算案 (i)倫理委員会の承認(又はその見込み)
1-2. 漢方に関する科学的知見を創出するための研究	5,000～8,000千円程度		計0～3課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療における漢方に関する安全性・有効性等の観点から、科学的根拠に基づく新たな質の高い臨床研究に繋がる知見を創出し、患者・国民及び医師などに還元することを目標とする。 ●求められる成果 統合医療における漢方に関する安全性・有効性等を示す新たな知見を創出する科学的根拠資料(特に「誰が、どのような属性を持った対象者(患者・国民)に、どの療法を用いて、その結果どうなったのか」等)。
1-3. 鍼灸に関する科学的知見を創出するための研究				<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療における鍼灸に関する安全性・有効性等の観点から、科学的根拠に基づく新たな質の高い臨床研究に繋がる知見を創出し、患者・国民及び医師などに還元することを目標とする。 ●求められる成果 統合医療における鍼灸に関する安全性・有効性等を示す新たな知見を創出する科学的根拠資料(特に「誰が、どのような属性を持った対象者(患者・国民)に、どの療法を用いて、その結果どうなったのか」等)。
1-4. 漢方及び鍼灸を除く各種療法に関する科学的知見を創出するための研究			計0～2課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療における漢方及び鍼灸を除く各種療法に関する安全性・有効性等の観点から、科学的根拠に基づく新たな質の高い臨床研究に繋がる知見を創出し、患者・国民及び医師などに還元することを目標とする。 ●求められる成果 統合医療における漢方及び鍼灸を除く各種療法に関する安全性・有効性等を示す新たな知見を創出する科学的根拠資料(特に「誰が、どのような属性を持った対象者(患者・国民)に、どの療法を用いて、その結果どうなったのか」等)。

2. 「統合医療」の各種療法についての安全性・有効性等の評価手法に関する研究				
2-1. 「統合医療」に関する科学的知見を創出するための安全性・有効性等の評価手法に関する研究	5,000 千円程度	1 年度	0~2 課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療については、多種多様であり、科学的根拠が乏しいものが含まれているとの指摘もあることから、統合医療に関する客観的指標を用いた評価法の開発に結びつけることを目標とする。 ●求められる成果 統合医療に関する信頼性と妥当性が担保出来た客観的指標を用いた評価法。
3. 「統合医療」の情報発信、実態把握、基盤整備に関する研究				
3-1. 「統合医療」についての、患者・国民及び医師の適切な選択に資するような情報発信のあり方についての研究	10,000 千円程度	1 年度	0~1 課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療は、近代西洋医学と相補(補完)・代替医療や伝統医学等とを組み合わせる療法であり、多種多様なものが存在する。そのため、各種相補(補完)・代替療法や伝統医学に関して、現時点で明らかになっている科学的な情報をわかりやすく整理し、国民に提供する。 ●求められる成果 統合医療の各種療法についての国内外の既存研究文献のレビュー結果が提示され、適切な情報発信のあり方についての提言などがされる。
3-2. 「統合医療」の各種療法について、国内外での利用実態や健康被害の状況の実態把握などを通じた安全性・有効性等に関する研究	5,000 千円程度	1 年度	0-1 課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 西洋医学の概念のみには依存しない、安全性や有効性が確立された日本の伝統医療や伝統文化・習慣を活用した統合医療の概念を整理するため、WHOにより定義された「健康の社会的決定要因」も踏まえ、国内外での統合医療の利用実態や健康被害状況等について、包括的に現状把握を行う。 ●求められる成果 医療機関による患者への統合医療の施術状況や情報提供、統合医療の各種療法の国民の利用実態・健康被害・認識及び期待等のそれぞれに関して各種療法が適切に選択されるようにするために情報を収集し、「健康の社会的決定要因」への統合医療の寄与の仕方や、西洋医学の概念にない日本の統合医療に関する概念についての試行的な提示をする。
3-3. 「統合医療」の国際標準化などの基盤整備に関する研究	10,000~20,000 千円程度	1 年度	0-1 課題程度	<ul style="list-style-type: none"> ●目標 統合医療について、これまでの国際的な動向を踏まえつつ、国際標準化を扱うISO技術委員会(ISO/TC249)に対応するための知見を整理する。 ●求められる成果 統合医療の各種療法について、その用語や規格、診療方法等の国際標準化に対応できるための課題及びその対応策が整理される。